

戦略企画会議から

Progress Report from the Strategic Planning Committee

戦略
企画
会議

10月から、新専門医制度への一斉移行が始まりました

10月から、新専門医制度への一斉移行が始まりました

2022年10月1日から新専門医制度への一斉移行が始まりました。10月には日本臨床眼科学会(以下、臨眼)が開催されましたので、今回は特に臨眼に向けた新専門医制度の準備、実際の臨眼での状況、および今後の課題などについて書かせていただきます。

1. 他科では新制度移行時に大混乱も

眼科は新専門医制度への移行開始が最も遅くなった科の一つでした。しかし、この間に他科が新専門医制度へ移行する際にどのような問題が生じ、どうしたら防げるのかを詳しく調査することができました。私たちの調査の結果、以下の3つが分かりました。①一番大きな混乱は、新専門医制度に移行し、最初に開催された全国学会〔眼科では日本眼科学会総会(以下、日眼総会)や臨眼〕で起きる。②学会で、「どこでどうやったら専門医の単位が取れるか分からない」との苦情が殺到する。③専門医の単位が取れる会場に人が押し寄せ、入場が遅れたり、人が溢れたりして混乱する。

あまりに混乱したために、新専門医制度の開始をいったん中止して、しばらくしてから再スタートした科もあるとのことでした。

2. 勝負は、「最初の臨眼」

そこで我々の目標は、「新専門医制度への移行後の最初の全国学会である臨眼で混乱を起こさないこと」でした。臨眼は8千人以上の眼科医が参加する眼科最大の国内学会です。この学会において新専門医制度のルール、特に新しい専門医の単位の取得方法を会員に十分に周知させることができれば、その後の学会や研究会もうまくいくはずだと考えました。

まずは、10月から新専門医制度の単位の取り方が変わることを会員に分かりやすく知らせることが大切だと考えました。そのために、日本眼科学会雑誌、日本の眼科、日本眼科学会のWebサイト、日本眼科学会の会員メールマガジンを使って、繰り返し新専門医制度のルールについての解説を案内することにしました。さらに、私自身も全国各地での講演会の際には、必ず10分間「新専門医制度への移行のポイント」という内容の講演を入れて、1人でも多くの会員に10月か

らの一斉移行をお知らせするように努めました。

3. 新専門医のカードは？ 学会で忘れた人はどうする？

新専門医制度への移行に向けて、専門医カードを新しくしなければいけませんでした。新専門医制度では個々の講演会場に入るときにカードリーダーで認証する必要がありますので、バーコードからICチップ入りのカードに変えなければいけなかったからです。しかし、新専門医制度への移行を決めた時点で、開始まであと1年間しかありませんでした。1万人近い専門医から新しく顔写真を集める余裕はすでになく、従来の専門医カードに使用した顔写真をそのまま新しいカードに使用することにしました。

臨眼で多くの会員がICカードを忘れることも想定されました。これまでは、専門医カードを忘れても単位受付で名前を申告し、単位を取得していました。しかし、新専門医制度では、本人が講演会場に行き、会場前に設置してあるカードリーダーで認証をして初めて単位が取れます。ICカードを忘れた会員には、「仮カード」を臨眼の期間だけ発行する必要がありました。実は今回の臨眼では、ICカードを忘れた会員のために、1千枚近い仮カードを準備することにしました。

4. どの会場で単位を取れるのか？

臨眼では、どの会場の講演を聴いたら専門医の単位を取得できるのかを分かりやすく示す必要がありました。そこで、プログラムの日程表にピンクの背景で「領域」のマークを付けることにしました。1つの領域講習(1時間以上)で0.5単位を取得できます。1日の最大取得単位は1.5単位(3つの領域講習)、午前しかない日曜日の最大取得単位は1.0単位(2つの領域講習)と決めました。

5. 最後に、もう一枚パンフレットで周知

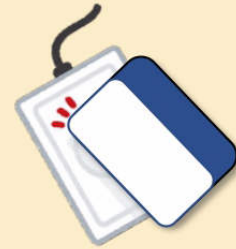
さまざまな方法で新専門医制度について周知してきたつもりでしたが、臨眼の1か月前の時点でも多くの会員はまだ新しいルールをよく知らない状態でした。そこで臨眼に参加する会員向けに、本当に重要な

臨眼に参加される先生方へ ～ 新専門医制度の単位を取る方法 解説 ～

現地で参加される先生方へ

- ・ 新専門医のICカード（青・白カード）を持参
※ ICカードは9月中に順次発送する予定です
- ・ 領域講習の会場の入り口で、ICカードをかざします
↳ プログラム **領域** のマークのある会場
- ・ 1時間以上の講習で 0.5単位
- ・ 1日の上限は、1.5単位（日曜日のみ 1.0単位）
- ・ 中継会場でも **領域** あります ・ 学会会場は WiFi 環境もあります

忘れないで！



※ 領域講習でICカードをかざした方は、自動的に学会出席0.5単位が取得できますので、総合受付でカードを提示する必要はありません。

臨眼期間中にWebでライブ視聴される先生へ

- ・ 専門医の番号を準備してください（今までと変更なし）
- ・ 現地参加と同様に、**領域** マークのある講習を視聴
- ・ 1日の上限は、1.5単位（日曜日のみ 1.0単位）



※ なお、ライブ視聴することで、自動的に学会出席単位（0.5）も取得できます

臨眼期間後にWebでオンデマンド視聴される先生へ

- ・ 専門医の番号を準備してください（今までと変更なし）
- ・ 現地参加と同様に、**領域** マークのある講習を視聴
- ・ 1日の上限は、1.0単位（日曜日のみ 0.5単位）



※ なお、オンデマンド視聴することで、自動的に学会出席単位（0.5）も取得できます

日本眼科学会 専門医制度委員会

ポイントだけ分かりやすく示した「新専門医制度の単位を取る方法」という1枚のパンフレットを作成し、これを臨眼の事前参加登録者へネームカードを送付する封筒の中に挿入することにし、当日登録者にも受付で配付しました(図)。同時に、日本眼科学会や日本眼科医会の評議員や代議員の先生方などをお願いして、メール、ハガキ、LINEなどを使って全国の会員にこのパンフレットを送ってもらうことにしました。

6. 会場入口の混乱を避けるには？

他科の状況を調べてみると、「専門医の単位が取れる会場に会員が押し寄せて長蛇の列を作り、さらに満員で入れなかった会員から苦情が殺到した」という声を多く聞きました。そこで臨眼では、単位が取れる「領域講習」をできるだけ多く設けることにしました。特別講演、招待講演、シンポジウム、インストラクションコースなどの1時間以上の講演は、単位が取れる「領域講習」としました。

次に、会場入口での混雑を回避するために、入口すべてに複数台のカードリーダー(大きな会場では4台)を設置することにしました。これによって、一度に多くの人が入場することが可能になりました。

会場から会場までの移動の混雑も予想されました。特に東京国際フォーラムのB棟にあるエレベーター付近はスペースが狭いため、多くの参加者が一斉に移動することで混雑が生じやすいと考えました。そこで今回の臨眼では、「領域講習」と「領域講習」の間の移動時間を従来より10分増やして30分としました。これを実現するためにシンポジウムやインストラクションコースの時間は90分から80分に短縮しなければなりません。この決定には、学会長の飯田知弘先生と総集会プログラム委員会委員長の瓶井資弘先生にたいへんお世話になりました。

7. 実際の臨眼では、混乱は生じず

緊張の多い臨眼を迎えましたが、始まってみると予想していたほどの大きな混乱は起きませんでした。これは、上記のような準備や周知を徹底したことに加え、参加者の約半数がWeb聴講であったことも理由の一つと考えられました。そして、臨眼で仮カードを発行した人は、なんと40人程度しかいませんで

した。

学会の会期中に最も多かった問い合わせは、「会場の入口でICカードをかざしたが、本当に単位が取れているかどうか心配である。確認してほしい」というものでした。単位が取れているかどうかは日本眼科学会Webサイトの会員マイページで確認できますが、単位が反映されるのは、通常は開催から1か月以降です。そこで、11月になってからご自身で確認していただくように伝えました。

8. 今後の課題

新専門医制度へ移行後の最初の全国学会である臨眼では大きな混乱は生じませんでした。今後いくつかの課題が残されています。ここでは2つの問題を述べます。

1つめは共通講習です。共通講習とは、すべての科の専門医が取得しなければいけない講習であり、最低でも3つの講習(必修講習A:医療倫理, 医療安全, 感染対策)を次回更新までにそれぞれ1回以上受講しなければいけません。新専門医制度の研修を修了して本年度に新専門医の資格を取得した眼科医は、必修講習Aとは別に5つの講習(必修講習B)も受講する必要があります。必修講習Aはいくつかの講習会やe-learningで受講できます。しかしながら、必修講習Bを今後どのように提供するかを考えなければいけません。

2つめは、「2027年問題」です。今回、眼科は新専門医制度へ一斉に移行を開始しましたが、5年後(2027年)にはほぼ全員が新専門医の認定を受けることになります。つまり、1万人近い眼科医に対して単位や資格の審査を一度に行う必要があります。この事務手続きは大変な作業になることが予想されます。そこで、2027年までに書類や申請をなるべくデジタル化し、効率的な審査ができるように準備したいと考えています。

このようにまだ課題は残されていますが、これら一つずつ解決し、今後なるべく多くの先生方が新専門医を取得・維持できるようにサポートしていきたいと考えています。これからも新専門医制度に関して質問やご意見などありましたら、いつでもお聞かせください。